

「福岡の美味しい」を極める!

ソワニ+
製作協力

日本遺産

鬼が仏に
なつた里

くにさき



六郷満山日本遺産推進協議会(事務局 豊後高田市教育委員会文化財室内)〒872-1101 大分県豊後高田市中真玉2144-12 TEL:0978-53-5112 <https://www.onie.jp/>



JAPAN HERITAGE

日本遺産



鬼が仏に
なつた里
くにさき



くにさき 鬼の幸

古来より鬼が潜むとされてきた国東半島に根付く、鬼にまつわる食文化。伝統行事「修正鬼会」では、この地ならではの海山の幸を使った伝統料理「鬼の膳」や「鬼のめざまし餅」を振る舞う地域がある。そんな独自の食文化に着目し、新たな『鬼の幸』を生み出しているのが「六郷満山日本遺産推進協議会」だ。名産品を生かしたり、眠っていた食材を発掘したりと気軽に親しめる食の可能性を広げることで、六郷満山文化の魅力を守り、繋げていく一翼を担う。

ろくごうまんざん 六郷満山文化

六つの郷と寺院の集合(満山)からなる、国東半島の六郷満山文化。平安時代の後期頃にかけて山岳信仰に天台宗が結びつき、「宇佐神宮」の神仏習合が合わさって独自の文化を築き上げてきた。



くにさき 11の谷

①香々地谷(かかぢだに)②真玉谷(またまだに)③長岩屋谷(ながいわやだに)④都甲谷(とごうだに)⑤田染荘(たしづのしょう)⑥国見谷(くにみだに)⑦来浦谷(くのうらだに)⑧富来谷(とみくだに)⑨国東谷(くにさきだに)⑩武蔵谷(むさしだに)⑪両子谷(ふたごだに)

国東半島にある11の谷には、それぞれ異なる暮らしや文化が根付いており、谷ごとの個性が六郷満山文化を形成している。

五辻不動 いつつじぶどう

◎大分県国東市国見町千燈
中世の古文書では「秘所」と記されていた霊場。御堂には不動明王が祀られており、姫島や瀬戸内海の島々を見晴らせる。「国東半島峯道ロングトレイル」のコースにも指定。

国東半島峯道ロングトレイル

☎0978-72-5173(国東市観光協会)
<http://www.kunisakihantou-trail.com/>



鬼が潜む 六郷満山 を歩く

鬼が仏になった里「くにさき」

歴史浪漫あふれる
神仏の里で鬼に祈りを
山海の美味とも出合う

大分県の北東に突き出している国東半島は、約1000〜2000年前の火山活動によって形成された自然豊かな地。山と谷が織りなす奇岩奇峰が醸し出すのは、どこか神秘的で厳かな空気だ。

岩峰に鬱蒼と茂る樹々の中に見られるのは、ぼつかりと空いた洞穴。かつて六郷満山文化が花開いたこの地には鬼にまつわる多くの伝説が残されている。一般的に恐ろしいイメージの鬼だが、岩峰や洞穴に棲んでいたとされる国東の鬼は不思議な法力をもつとされ、僧侶によって仏(不動明王)と重ねられていった。この「鬼が仏になった里」「くにさき」のストーリーは2018年、文化庁の「日本遺産」に認定。寺院や岩屋を歩けば出合えるのは柔らかな表情の鬼や不動明王。時折吹き抜ける風を受け、摩訶不思議で頼もしくもある鬼伝説に、思いを馳せてみよう。無論、国東の魅力はそれだけにあらず。海と山に囲まれた豊かな風土から生まれる滋味豊かな食材、それらを使った酒や調味料も語り始めればきりが無い。さあ、祈りの鬼に導かれるように、いざ国東半島へ行かん。

富来谷・来浦谷

とみく Tomiku

くのうら Kunoura



国東を五感で感じる
里山のオーベルジュ

築100年の古民家を、梁や柱を生かしながら手をかけた「physis」の空間。目の前の山の土を掘り、左官と一緒に川崎さんが塗ったという野手溢れる土壁も趣深い。隣には1日1組の宿泊施設もあり、オーベルジュとして滞在できる。



ランチ、ディナーともに12000円のコースのみ。写真は料理の一例で、地元の漁師が捕った「国東さわら」のソテー。レアに焼き上げ、青ミカンの果肉や魚の出汁の優しいソースでいただく。

開運を願う道の先に立つ
“文殊の知恵”で知られる社へ

富来谷のパワースポット「八坂社・富来神社」。その縁起の良い名で開運神社として親しまれており、目の前を走る県道652号の愛称「開運ロードとみくじ」の由来となっている。そして、その道を車で上ること約10分、三人寄れば文殊の知恵で知られる日本三文殊の一つ「文殊仙寺」が立つ。馬の森が姿を現す。天台宗の伝教大師最澄の「依身より依所」（修行する環境の大切さを説いた言葉）の通り、静寂に包まれたこの地は、まさに自らと向き合う修行の場に相応しい。鋭い冷気が心身を引き締め、燃え上がる護摩祈願の炎が煩惱を焼き尽くす。

築100年の侘寂のある古民家、窓の外に広がる田園。日本の原風景を残す山間に佇む「physis」では、オーナーシェフ・川崎遼平さんによるオール国東半島の食材を使ったフレンチがいただける。パリで学んだ技法をもとに、枠に囚われない料理を目指す。

開運・厄除けのご利益で知られる「八坂社・富来神社」。江戸時代に彫られたと伝わる繊細な彫刻が、境内の各所で見られる。



八坂社・富来神社

◎大分県国東市国東町富来892
☎0978-72-5168 (国東市観光・地域産業創造課)

physis ビュシス

◎大分県国東市国東町来浦470
☎070-8454-9511 (昼夜ともに2日前までの要予約)
◎12:00～ / 17:00～ ㊿不定 ※13歳以下は入店不可



不眠不休で疫病や飢饉を鎮め、鬼の姿になったと伝わる慈恵大師良源を模した、全国的にも珍しい木彫りの「鬼大師坐像」。魔除け・厄除けとして、お守りや御朱印帳にもその姿が描かれている。

峨眉山 文殊仙寺 もんじゅせんじ

◎大分県国東市国東町大恩寺2432 ☎0978-74-0820



比叡山より分灯を受けた、1300年を超える歴史を持つ『文殊仙寺』。護摩祈願を希望する際は、前日までに要予約。



標高616mにある絶壁に立つ本堂。本尊の「文殊師利菩薩」は、12年に一度だけ開帳される。



本堂まで続く約330段の石段沿いに立つ、凛々しい姿の仁王像。室町時代につくられたと伝わる。

絶壁にそびえ立つ
日本遺産・構成文化財の
一つである名勝
「文殊仙寺」で
自らの心と向き合う



室町時代に建立された、制作年代が刻まれている日本最古の石造仁王像が参道に立つ『岩戸寺』。また、国東半島独自の発展を遂げた石塔「国東塔」の中でも、最も古く美しいといわれる「国東塔」を有する寺でもある。

伝統行事「修正鬼会」を
後世に伝える



石立山 岩戸寺 いわとじ
◎ 大分県国東市国東町岩戸寺1232
☎ 0978-77-0537

『岩戸寺』で行われた「修正鬼会」の一場面。
鬼と人が楽しそうに酒を交わしている。



国指定の重要無形民俗文化財である「修正鬼会」は、『天念寺』で毎年、『岩戸寺』と『成佛寺』で隔年交代で行われている。鬼の法力を込めた松明で尻や背中を叩かれると、一年間の無病息災が約束されると伝わる。煙が立ち込め、火の粉が舞う会場は迫力満点だ。



鬼と人が共に踊る
六郷満山屈指の
年に一度の伝統行事

一般的には恐ろしいものとされる鬼。しかし、この地に潜む鬼は、昔から人々に幸せを運ぶ存在として親しまれてきた。その代表的なものが、『天念寺』『岩戸寺』『成佛寺』で受け継がれる「修正鬼会」。旧正月の夜に行われる伝統行事で、鬼に扮した僧侶たちが参拝者に無病息災などを叶えるという火の粉を振りかける。また、『岩戸寺』『成佛寺』の祭りの終盤には、鬼と共に踊り、笑い合う様子も見られる。そんな鬼と人との独自の関わりが、2018年の「日本遺産」登録へと繋がったのだ。

鬼と人との交流の始まりは、1300年ほど前に遡る。不思議な法力を持つとされる鬼を、僧侶たちはいつしか「仏（不動明王）」と重ねるようになったそう。今でも各寺には多くの鬼面や不動明王の石像などが残っており、変わらずに、訪れる者の祈りに優しく寄り添っている。

修

しゅじょうおにえ

正

鬼

会

Shujoonie

くにさき

鬼の幸

其の壱

「天念寺」を有する長岩屋谷で採れる、山の幸をふんだんに混ぜ込んだ万能調味料。華やかな香りを放つ大分県名産のカボスの皮と実山椒をメインに、穂紫蘇、生姜、青唐辛子などの香味野菜が豊かな味わいを生み出している。甘めの味噌がベースなので、豆腐や白ご飯などでシンプルに味わうのもよし、野菜のディップソースとして活用するのもよし。監修した、東京・六本木のレストラン「Maestranza」の比嘉康洋シェフ曰く、しゃぶしゃぶなどの鍋物や魚料理の薬味にも重宝するそう。



歴史と伝統が息づく
長岩屋谷の山の幸を詰め込んだ
風味豊かな万能調味料

国東半島でたくさん採れるカボスを利用し、その価値を高めたいと開発された商品。今では東京や福岡の飲食店にも即す人気商品だ。

鬼の郷の実山椒とかぼす 生七味 (145g)
オンラインショップ
<https://onie.base.shop/>

ご購入はこちら



河畔に佇む「天念寺」。天念寺耶馬と呼ばれるその地には、まさに鬼が潜むような奇岩がそびえ立つ。水害除けのために岩に彫られたという「川中不動」も見どころの一つ。

長岩屋山 天念寺 てんねんじ
◎ 大分県豊後高田市長岩屋1152
☎ 0978-27-3049 (鬼会の里)

龍下山 成佛寺 じょうぶつじ
◎ 大分県国東市国東町成仏1140
☎ 0978-76-0626